



合同会社MISAKI STAYLE (ミサキステイル) (三浦市)



移住者と地域をつなげるトライアル

■移住者と地域をつながり創出
ミサキステイルは、人口減少、地域産業の衰退など三浦市が抱える課題に対し、草の根レベルで自由に取り組もうと集まったメンバーによる私設の移住相談所が前身です。当初は自治体との連携を模索していたが、できることからすぐに取りかかりたいという思いから2018年夏に法人化し、移住支援や空き家活用に取り組んでいます。

移住者の悩みが多いのが、移

住先の地域コミュニティとの関係です。そこでミサキステイルでは、移住前の相談から、トライアルステイ、さらに移住後に地域コミュニティに溶け込んでいくためのきつかけづくりまで行います。

■ひとつつながる拠点「あるべ」
そのための拠点として、2019年8月に築55年の空き家を改修して、移住希望者がお試し居住や飲食店を営業できる拠点「ALBE (あるべ)」をオープン

しました。ここでは、移住や起業相談、空き家・空き店舗相談のほか、移住者同士、移住者と地域の方とのつながりをつくるための催しが開催されています。その店舗の中は、自然と人をつながり生まれるようデザインされています。例えば、同じテーブルを囲む人の距離。接点がない人たちでも自然と会話が生まれるよう机のサイズや椅子の配置などを計算して設置しています。

■取組み継続のためのビジネスモデルの構築
ミサキステイル社長の菊地 未来さんは、活動のコツを、「地元を大切にすること」、「自分たちが楽しみ、できる範囲のことをすること」に加え、ビジネスとしても持続可能な形をつくっていくことが重要と話します。そこで、ミサキステイルでは、短期的な2年間の目標を立てています。2019年度を「拠点づくりの年度」と位置づけ、収益モ

一言アドバイス

「……地元へのつながりが自然と生まれる仕掛けを考える。」



合同会社
MISAKI STAYLE
(ミサキステイル)
社長 菊地 未来さん

成功のコツ

- ・机や椅子のサイズ、配置まで、ひとのつながりが自然と生まれるよう拠点をデザイン
- ・ビジネスモデルを構築するための2年程の短期的な目標を定め、計画的に活動する

ベース

デルを整えるため市内の他の2地域に新たな拠点を設けました。使用頻度の少なかった区民会館の調理室をレンタルキッチンとして活用する取組みを2019年11月からスタートしました。早朝から動く周辺農家の方がお昼ご飯で悩んでいる中、月に1回弁当店を営業し、地域から需要にマッチしたと好評を得ています。さらに、移住者の方に地元の魚をもっと楽しんで欲しいと、魚のさばき方教室を開催したところ、移住者同士だけでなく、先生役を買って出た地元のお店のつながりも生まれてい

ます。
また別の地域では、空いているゲストハウスを使用して、一戸建てにお試し居住できるトライアルハウスもオープンしました。
2020年度はこの3拠点を軸にPR活動を強化し、ビジネスとしてしっかりと回していきたいそうです。
「ALBE」を中心に、ビジネスモデルを構築して取組みの継続を目指すミサキステイル。移住者と地域をつなげていくミサキステイルの活動はこれからも続きます。